Saitama Business Network 2016

企業トピックス

トキタ種苗

ゴールデンウィークを中心に全国で実施

「トキタ野菜苗」試食販売会

トキタ種苗（さいたま市見沼区、時田巌社長）はゴールデンウィークを中心に「こだわり農家さんも感嘆！おいし～いトキタ野菜苗」試食販売会を全国の種苗店・ホームセンター店頭で実施している。

今年イチオシという濃蜜トマト「フラガール」やおいしさとかわいらしさで定番の「トマトベリーガーデン」「サプリガールズ」の果実を試食できる。店舗・時期により、試食できる果実は異なる。店頭では「トマト栽培ガイド」や「色変わりパプリカ『スイートカメレオン』栽培ガイド」も閲覧可能。いずれの品種も家庭菜園やプランターでも簡単に育てられるので、この機会に自宅で栽培してみては。

詳細はトキタ種苗キャンペーン特設ページへ。http://www.tokitaseed.co.jp/nae/

サントリービール

「ザ・プレミアム・モルツ」ビールギフト

3年連続で日本ギフト大賞

日本のギフト文化への貢献や活性化につながる独自性や創造性を生かした贈り物などを表彰する「日本ギフト大賞2017」（日本ギフト大賞選考委員会主催）で、サントリービールの「ザ・プレミアム・モルツ」ビールギフトがプレミアムギフト賞を3年連続で受賞した。

「大切な人への贈り物にはプレミアムなものを」という消費者のニーズを引き出した先駆者として、プレミアムギフト市場をけん引。また、カジュアルギフトとして「自分買い」需要を創造する「ザ・プレミアム・モルツ　新幹線デザイン缶アソートセット」を発売するなど、ギフト市場の新たな商流と文化の創造への貢献が評価された。

同社は2017年サマーギフトでも限定商品を数量限定で新発売する。

ラグビー　精神と文化

プロフィル

坂下　辰夫（さかした・たつお）

埼玉県立浦和高等学校、東京教育大学（現・筑波大学）卒。監督として浦和高校、桶川西高校、川越高校でラグビーを指導。高校時代にラグビーを始め、大学時代も選手として活躍した。埼玉県ラグビーフットボール協会理事就任後は、2011年6月の東日本大震災復興支援チャリティマッチ開催に向け中心的な存在を担い、選手を招集。その結果、埼玉県トップリーグ選抜を実現させた。2019年ラグビーワールドカップの熊谷招致においては、10万人を超える署名を集めることに尽力した。

「W杯のレガシーとして何を残すかが大切」と語る坂下辰夫さん

実は、公認キャンプ地の前に非公認キャンプ地があります。公認キャンプ地に入っていい日は大会の1カ月前とか2カ月前。正確には分かりませんが決められてるんです。その前に日本に入って練習するチームは非公認キャンプ地、その市町村とその国との相対で（交渉を）やるキャンプ地がある。ニュージーランドを呼びたければ、交渉によっては1週間とか2週間とかキャンプを張ってくれる。

その結果、まちおこし、村おこしになる。そういう動きもたぶん、どこかで行われているんです。

■高校生で幕開け案

2018年8月に新ラグビー場が完成予定です。こけら落としに何をやるか。8月は日本の場合、トップリーグも始まるし、外国もスーパーラグビーが終わった直後で、いろいろ難しい時期。8月に完成しても使わずに11月まで待とうかと。11月はウィンドウマンスといい、国際交流マッチをやりなさいと世界のワールドラグビーが決めている。新ラグビー場の完成が8月でも、11月まで維持して、ジャパン対オーストラリアとかジャパン対ニュージーランドとか、そういう試合でこけら落としができればとも考えています。

私の個人的な発想ですが、高校生に使わせてあげたい。高校生（全国高校ラグビー埼玉大会）の開会式が9月の頭にあるんです。全然使ってない3万人のグラウンドで高校生に開会式をやらせてあげて、1チームか2チームだけナイターで試合をやらせてあげる。ただ、これは全然、決まってません。お考えがあればお聞かせいただきたい。

■埼玉に何を残すか

2019年9月20日から11月2日まで、ラグビーW杯が行われます。12会場48試合、予選リーグが40試合、準々決勝以降が8試合。予選リーグ12会場で40試合ですから1会場で3～4ぐらい予選が来る。熊谷はできたら3試合で。3万人を満杯にするのは大変。3試合で9万人と考えております。

合計入場者数は、2002年のFIFAのW杯と比べると200万人くらい見込めるんじゃないか。そのうち外国人が20万人。日本協会は外国人が40万人と言っています。過去のデータで言うと、外国人の滞在日数はサッカーW杯に比べて長い。それから1日当たりの平均スペンディング、どのくらいお金を使うかが、ラグビーW杯は多いのではないかと言われています。

この中で埼玉に、熊谷に、どれだけ落とさせるか。どれだけ滞在させるか。熊谷に前の日に来て、試合見て、試合終わったら飲んで、次の日も1日、熊谷で、また埼玉で、秩父に遊びに行くとか聖天さま見に行くとか工夫をしなければいけない。

最後にW杯が終わった後のことをお話ししたい。W杯は成功すると思います。じゃ何が残ったのか。何を残したのか。二つ、いま考えています。

一つは、ラグビーが誇れる文化。ワン・フォー・オール、オール・フォー・ワンの精神。ノーサイドの精神。ラグビーの文化を、埼玉に、子どもたちに残したい。いま埼玉県ラグビー協会で県内820の小学校にタグラグビーのセットをあげたいと考えています。全部で約2千万円かかると試算して、これまでに集まった四百数十万円分、173校に差し上げました。この後もお金を集めて、今年中には全ての小学校に送りたい。

もう一つは、熊谷スポーツ文化公園です。ラグビーのW杯、世界のW杯があった。でも2年後、3年後、全然お客さん入ってないね。そうならないように何とかしなきゃいけない。素晴らしいW杯をやった、はやりの言葉で言えばレガシーが熊谷に残せるか。試行錯誤してるのが、ラグビー場を中心にしてスポーツ、健康、医学…一つの文化圏をつくりたい。ラグビー場の横にスポーツジムがあれば人が来るじゃないですか。ラグビー場の横にプールがあれば、イングリッシュガーデンがある喫茶店があれば、集まるんじゃないのかなと考えております。

ラグビー場の周りでおじいちゃんが運動したり、子どもがラグビーやったり、プールで泳いでる人がいたり、イングリッシュガーデンでお茶を飲んでる老夫婦がいたり、そういうイメージができないか。それも民間の方々のご協力を頂かなければならない。

壮大な夢、実現できるかどうか分からない夢ですが、夢だったW杯も熊谷でできてしまうので、こちらの夢もかなうかなと頑張っております。ご清聴ありがとうございました。

施設と改修の概要

観客席とピッチ近付け臨場感を

埼玉県公園スタジアム課
主幹ラグビー場整備担当
祝　智さん

熊谷ラグビー場は平成3（1991）年オープン。老朽化が著しく設備機器も更新時期を迎え、修繕など対応を検討していた時にラグビーワールドカップ（W杯）の会場に選定され、国際大会規格に合った会場整備、大規模な改修工事に着手しました。

改修に当たってのコンセプトは三つあります。一つ目は客席とピッチを近付け、臨場感あふれる試合観戦ができるようにすること。メインスタンドからタッチラインまでの距離を改修前よりも約8㍍短くし、スタンドも傾斜をきつくしてグラウンドまでの距離を近付けます。

二つ目として、選手や報道、観客の導線（人の流れ）を分離し、大会運営に配慮した導線を確保します。それぞれの安全性を確保し、スムーズな移動が可能になります。

三つ目は、トレーニング拠点としての計画です。W杯後も国際試合、トップリーグの試合のほか日本代表選手などの強化施設としての利用も見据えた整備を行います。

施設の概要ですが、改修前はメインスタンドと土盛りのサイドスタンド、バックスタンドという構成でしたが、土盛りスタンドを撤去し、バックスタンド側にメインスタンドを新設。既存のメインスタンドをバックスタンドとして改修します。

新設のメインスタンドは4層構造で、1階が選手更衣室やアップ練習場、管理運営部門などの部屋、2階以上が観客席で、3階に個室の観覧席。南側サイドスタンドにテラス席のあるレストランを配置します。

バックスタンドは内装、外装ともに全面的にリニューアル。1階部分にはナショナルトレーニングセンターとしても機能充実を図るため研修室やミーティングルーム、トレーニングジムなどを整備する計画。観客席は全て個席として2万4千席を確保する。W杯開催時はサイドスタンド後方に仮設の観覧席6千席を設置し、常設の2万4千席と合わせ3万席を確保する計画です。

総事業費は124億円。新設するスタンドの工事約79億円、既存メインスタンドの改修工事、外構工事、設計などが含まれています。

工事スケジュールは、新設するメインスタンドとサイドスタンドの工事、それと既存のメインスタンドをバックスタンドに改修する工事の二つ。新設部分は今年2月中旬に着工し、メインスタンド部分はくい工事が完了、建物の基礎工事を行っています。サイドスタンド部分は埋蔵文化財の発掘調査を行っており、その終了後に基礎工事に入ります。

既存スタンドの改修は建築設備工事を分割し、県内業者を対象にした入札を4月5日に公告しました。5月中に施工業者が決定し、6月ごろ着工できる見込みです。

新設するスタンドの本体工事と併せて平成30年8月、来年夏の完成を予定しています。スタジアム完成後は、W杯プレ大会前までに仮設の観覧席を設置し、2019年のW杯を迎える予定です。

熊谷スポーツ文化公園の概要を説明させていただきます。面積は約88㌶で、代々木公園（東京都渋谷区代々木）の1・5倍ほどあります。

（公園の）東地区には、陸上競技場があります。陸上競技場は平成16（2004）年度（に開催された）彩の国まごころ国体の会場になり、それに伴って整備されました。

（公園西地区にある）熊谷ラグビー場は現在、改修工事中です。（熊谷市が会場になって）さいたま博覧会が昭和63（1988）年に開催された跡地に三つの専用ラグビー場を含むエリアがまず整備され、この東地区になりました。

（ラグビー場が改修中のため）陸上競技場で第18回選抜高校ラグビーの試合をしており、4月8日に準決勝、9日の日曜日に決勝戦が行われます。陸上競技場ではラグビー場が整備されるまで、今後もラグビーのイベントが開催されます。

いま「オール熊谷」として、ラグビーの盛り上げに今後とも、われわれ公園側も協力して、一致団結していきたいと思っています。

「オール熊谷」でW杯盛り上げへ

熊谷スポーツ文化公園
管理事務所企画運営課長
松井　隆さん

私たちは埼玉ビジネスネット

埼玉りそな銀行 RESONA
りそな総合研究所 RESONA
AGS株式会社 ITで、確かな成長と成功を Assuring Growth and Success with IT.
KIRIN
SUNTORY
Designing The Future KDDI
TOSHIBA Leading Innovation
MITSUBISHI ELECTRIC Changes for the Better
トキタ種苗株式会社
広告・印刷のトータルエージェンシー ADF 株式会社アドファースト
埼玉県商工会議所連合会
埼玉県商工会連合会